

LETTERED EDGE

レタードエッジを楽しもう！

(イギリス編)

Aurized Coins
須崎 武

イギリスのロイヤルミントミュージアムによれば、一六六〇年代までは手打ちでハンマーコインが製造されていたそうです。エッジは丸くなるようにブランクコインを転がして叩くと



(上) 1601-1602 エリザベス 1 世 クラウン
(下) エッジ部分 (プレーンエッジ)

いうようなことをやっていたようですが、とてもレタードエッジまでは技術的にも気が回らなかったことと思います(上写真参照)。イギリスの造幣は、一六六〇年代初頭のチャールズ二世王政復古で機械化されたようです。

SPINK カタログ (SPINK "COINS OF ENGLAND & THE UNITED KINGDOM") によれば、クラウンとハーフクラウンにはレタードエッジが入っているとあります。驚いたのが当時の彫刻師トーマス サイモンが試鑄した「請願クラウン」です。

(1) チャールズ二世 請願クラウン銀貨

私がつとも「これはスゴい!」と思ったレタードエッジを持つコインです。なんと二行で刻印されており、しかも陽刻です。銘文はかなり長く刻印されています。意味は簡単にいえば、このコインをデザインしたトーマス サイモンが、時の国王チャールズ二世に自



(1) 2023 年 チャールズ 2 世 請願クラウン銀貨
モダンリマスター
(本品は 2 枚組で、掲載した写真は共に裏面の画像。
表はどちらもチャールズ 3 世の肖像)

分のデザインしたコインを採用してくださいとお願いした内容になっています。ですので「請願クラウン (Petition Crown)」とも呼ばれています。右の写真は、近年製作されたモダンリマスターです。オリジナルはレア度 R4 で 1〜20 枚ほどしか存在していないようです。機械式で打ち始めた時代に、しかもエッジにこれだけの技術を施せるのがオドロキです。このモダンリマスターを製作したロイヤルミントによれば、二行の陽刻文字をどうやって彫ったのかは謎で、現代の技術をもってしても再現することは非常に困難であったそうです。当時の技術を再び学び直した、とも言っています。こ